

令和3年度 サケの観察日記

かんさつにっき

No.2

(令和4年) 1月11日

12月27日にすべての卵がふ化しましたが、石のかけにかくれているのでサケ達がみんな元気なのかどうか確認できません。気になります、いま石を動かすとサケをつぶしてしまうかも知れないので、泳ぐようになるまでそっとしておくことにしました。(ただし、白いわたのようなカビが発生したときは、死んでしまったサケがいるということなので、急いでさがしてとりのぞきます。)



1月24日

約2週間ここまからだの色が変わりました。お腹の袋は“さいのう”といい、栄養がつまっています。その“さいのう”から栄養をとっている、じっとしているだけで、どんどん成長していくのです。



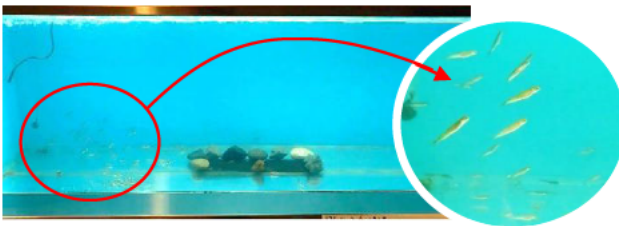
1月28日

“さいのう”が小さくなり、皮膚でおおわれていくのがわかります。



1月30日

旭山動物園さんのサケのようすを見てきました。驚いたことに、もう浮上して泳いでいます。浮上できるということは、“さいのう”の栄養をほとんど吸収し、泳ぐ力がつくまで成長したということです。水温の設定は子どもの水辺の水槽と同じく8℃ですが、室温の違いで動物園さんの1日の平均水温がほんの少し高くなり、成長が早かったのかも知れません。浮上し始めたらエサの準備が必要ですが、お腹が完全にふさがっていないうちは、消化器官が発達していないので、あまり早く食べさせないようにしています。



1月31日

教育大学附属旭川幼稚園さんのサケを見せていただきました。一番早くふ化したので、たくさんのサケが泳いでいる姿を想像していたのですが、まだお腹も大きく、水槽の底の方で横になっていました。今は水温を少し低めに設定しているそうです。園長さんはサケの飼育経験が長いのでノウハウも豊富です。

